

委員会提出議案第1号

第32回オリンピック競技大会（2020／東京）の開会式に競技施設等の工事従事者の入場行進を求める意見書

上記の議案を会議規則第14条第2項の規定により提出する。

平成30年9月19日

提出者 文教厚生委員長 浜中 のりかた

第32回オリンピック競技大会（2020／東京）の開会式に競技施設等の工事従事者の入場行進を求める意見書

2020年、第32回オリンピック競技大会（2020／東京）（以下「東京2020大会」という。）が開催されます（7月24日～8月9日）。現在、開催に向けて、（公財）東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、東京都、政府、建設産業が一丸となって競技施設及び関連インフラ等の整備を進めています。大会の成功に向けて、競技施設等を滞りなく完成させることは必須であり、工事従事者はその重責を担い、誇りと気概のもと工事を進めています。

このような中で開会式まで残り約2年を切り、人手不足、工期遵守の厳しい状況にありながらも、工事従事者は、競技施設等を竣工させ、東京2020大会を転機に労働環境を整備し（働き方改革）、次の担い手に継承していこうと取り組んでいます。

開会式での入場行進は、工事従事者において、東京2020大会で大役を務め上げたことを実感し、仕事に誇りを持つ絶好の機会となります。満場の新国立競技場のフィールドを観客に見守られながら行進し、開催の喜びを選手と観客とともに分かち合う機会となります。

競技施設の工事現場では、男性だけではなく女性や外国人技能実習生（多様性と調和）がともに力を発揮し（全員が自己ベスト）、建設産業の社会的役割と地位の向上を継承しています（未来への継承）。これらは、東京2020大会のビジョン「全員が自己ベスト」、「多様性と調和」、「未来への継承」を具現しています。特に、競技施設や建設技術だけではなく、東京2020大会を転換点に、工事従事者の労働環境の整備を通じた社会的地位の向上は、貴重なレガシーと理解しています。大会の目的に即しても、ビジョンを体現した工事従事者の開会式への参加は至当と考えます。

実際に、第27回オリンピック競技大会（2000／シドニー）の開会式で、競技選手たちの入場に先立ち、工事従事者が会場を1周したと報道されています。

よって西東京市議会は、東京都に対し、下記について求めるものです。

記

東京2020大会の開催に尽力された工事従事者（事業者・労働者）が、その職責を果たした達成感や職務への誇りなどを感じられるよう、第27回オリンピック競技大会（2000／シドニー）に倣い開会式における入場行進を検討されたい。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

平成 年 月 日

西東京市議会議長 小 幡 勝 己

提出先 東京都知事